

「別れる」だけでは解決しない『デートDV』

今、若者の恋愛関係の中で問題になっている『デートDV』。恋愛感情が暴力となって現れてきた時、あなたはどうしますか？目を背けますか、きちんと向き合えますか？『デートDV』のことを正しく知っていれば、二人の間に現れてきた『デートDV』から抜け出すきっかけが見つかります。

今回は、DV問題に取り組み、早稲田大学の学生と一緒に『デートDV』について活動している、兵藤智佳さん（早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター助教）に『デートDV』についてお聞きしました。



Q1. デートDVとは

婚姻関係にないカップルの間で起きている暴力です。DV（配偶者からの暴力）は法的に犯罪だと国が認めています。それに対して婚姻関係にないカップルの場合、法的に認められていないので保護の対象にならないところが大きな違いです。

暴力の形態は身体に対する暴力、精神的、経済的、性的な暴力というようにDVとの違いはないですが、実質的に若者の間で多く、若者特有の暴力の形が問題となります。例えば、携帯電話に関する暴力（履歴をチェックされるなど）などが典型です。

Q2. 恋愛関係になぜDVが現れてくるのでしょうか

一つに多くの場合、当事者にDVという意識がないことがいえます。つまり、当事者が暴力をふるうことも愛情表現だと認識してしまい、自分が暴力をふるっている意識がないのです。もう一つに、恋愛に夢中になればなるほど相手を拘束したいという欲望が生まれ、それが気づかぬうちに暴力という形になって現れていることもあります。

愛しているから殴ってしまう、愛されているから殴られていると当事者が認識することで、当事者がDV関係にあると感じていないことが問題となってきます。

Q3. 年代ごとの特徴はありますか

アンケート調査に基づいた厳密としたものではないですが、10代におけるDVは携帯電話に関するものが多いように感じます。また、デートDVの関係にあったカップルは婚姻したあともDVの関係が続いてしまう傾向があります。

Q4. 両親の間にDVがあったことは子どもに影響しますか

やはり親が暴力を振るっている場面を見て育った場合、暴力的になる傾向が多いといわれています。親のしていた態度が、今の恋人に対してそのまま出てしまったりすることもあります。

一つの例ですが、「自分は親のようにはならない」と意識している学生であっても無意識に、交際相手に親と同じような態度をとっている場合もあります。ただ、そのような場合でも自分の行動について意識的に疑問に感じる場合もあり、親が暴力的であっても一概に全ての人が暴力的になるということではありません。

Q5. デートDVをする側は付き合う相手によって暴力を振るわなくなりますか

相手によって暴力を振るわない可能性もあります。また、相手にはっきり嫌だと言われたら振るわなくなる場合もあります。

Q6. デートDVを受けている時、なぜその事実を受け入れられないのですか

DV関係にあっても相手のことが好きであることに変わりはない場合が多いです。そして、相手のことが好きだから、自分たちの関係がちょっと変だと思っても相手のことを信じようとしてしまうことが、DVを受けているという事実を受け入れられないひとつの理由でもあります。

Q7. デートDVから抜け出すことはできるのでしょうか…また、周りの人たちはどのように気付かせ、手助けをすればよいのでしょうか…

多くの場合、「別れろ」と言ってもまだお互いは好き同士なので別れようとはしません。問題解決は別れるというところではなく、当事者がその恋人から好きだといわれなくても大丈夫な状況をつくれるかどうかです。自分の存在を認めてくれる誰かを本人が意識できることは、恋人との暴力的な関係から抜け出せる力となります。

デートDV関係にありながらも恋人との関係を続けているのには必ず理由があります。孤独感、他者から認められていないという感覚、自尊心の欠如というような、単に「別れる」だけでは解決にならない深い問題があり、それが解決されていないのに、ただ相手と別れるだけでは解決になりません。別れたほうが良いのかは、本人に選択があるかどうか重要です。「別れる」ことだけではなく、色々な選択肢を選べる状況にあることが大事だと思います。当事者にとって二人の関係が全てではなく、家族や友人との付き合いの中で恋人以外にも自分を認めてくれる人がいて、一人でいることを選ぶ中で、恋人と一緒にいることを選択するなら、それは本人の選択だと思います。

Q8. デートDVを受けた人が、また同じようなDVをする人に惹かれる場合もあるがそれはなぜですか

いろいろな複雑な理由があり、理由はひとつではありません。中でも、例えば、人格的には暴力的でない人を望んでいても、性的なところでは暴力的でないところと興奮しないところに原因がある場合などもあります。また、そのような自分がいることに気づいてしまい、そんな自分を否定して苦しんでいる人もいます。相手のことを嫌悪する一面がある一方で、性的な興奮を求めて別れられない例もあつたりします。そうした場合には、どうして別れられないかを自分自身が見つめながら、自分で納得する必要があります。支援では、そうした自分を受け入れるプロセスに寄り添うことが重要になります。

Q9. デートDVに向き合うために、自分を守るために、自分自身でできることはありますか

知識があるかどうか、暴力的な関係の時に“変だ”と思えるかどうか大切です。

知識について多くの人がすでに知っていることではありますが、自分に起こることだと思っていないことが問題です。自分にも起こることだと認めることが大切です。そのために当事者の声を聞くことが大切になってきます。自分と同じ状況の人がいるとわかることは、自分の関係も認めるための力になります。デートDVを受けている自分の状況を理解してくれる人がいることが必要です。

Q10. 子どもが成長するにつれて恋愛は避けて通れないもの。親として、また、子どもに関わる関係者として、デートDVとどう関わっていったらよいのでしょうか

まず、親は、子どもが「何も言わない」ことを認めることだと思います。多くの場合、子どもは親に心配させたくないため自分の状況を言おうとしません。デートDVを受けているなんてなおさら言いません。この状況を親が認めることです。

親ができることは、『どんなことがあってもどのような状況にあっても私はあなたのことを大切に思っている』というメッセージを伝えることだと思います。そして、子どもにとって、安全で戻ってくる場所があることを示すことが大切であり、また親にできることはそれくらいしかないと思います。

そして、小さいうちからのデートDVについての防止教育としては、デートDVに限定する教育よりも、『人と人とのコミュニケーションや相手の嫌がることはしてはいけないという根本的な教育』が大切だと思います。ゲームや携帯電話が幼い子どものころから日常にある今日、コミュニケーション力が低下し、相手がどう思っているかを理解する力が弱くなっていることが大きな問題だと思います。

小さいうちから恋愛関係にあることは少ないので、それよりも非暴力的な関係、相手がどう思っているかを理解することについて教育することが、『デートDV』を生み出さないために、私たち大人ができることだと思います。



ひょうどう ちか
兵藤 智佳 さん プロフィール

早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター助教。日本や東南アジアでエイズや暴力の問題に取り組みつつ、「支援されながら支援する実践」を目指している。東京大学大学院教育学部博士課程満期退学。ミシガン大学客員研究委員、国連人口基金タイ事務所国際フォロー、早稲田大学アジア太平洋研究センター助手などを経て現職。専門は、保健医療とジェンダー。

デートDV：おススメ図書を紹介

デートDVと学校 —あしたがある—

編著：高橋裕子
(エイデル研究所／2010年)



高校の養護教諭として多くの生徒と関わってきた経験を基に、「デートDV」と学校の関わり方、あり方について書いている。「100人いれば100通り、一人ひとりの生徒はちがひ、みな同じではない」、対応や支援のあり方も一人ひとりちがうことを気付かせてくれる本。保護者や学校関係者におすすすめな本。

愛する、愛される

—デートDVをなくす・若者のためのレッスン7—

著：山口のり子／漫画：海里真弓
(梨の木舎／2004年)



「デートDV」の内容を漫画や事例、アンケート結果などから学ぶことができ、ティーンズにも読みやすい。チェックボックスで今の自分を知ることもできる。「デートDV」をなくすための、実践的テキストとなる本。